

連携室たより

第 60 号

平成 25 年 12 月 1 日
出雲市姫原 4 丁目 1 番地 1
島根県立中央病院 地域医療連携室
医療連携・医療相談科

TEL 0853-30-6500

FAX 0853-30-6508



薬剤局

～がん薬物療法への薬剤師の役割～

薬剤局薬剤管理科長 竹下 和男



医療の急激な進展に伴い、医師、薬剤師、看護師など多様な医療スタッフが
高い専門性を発揮してチーム医療を推進し、良質で安全な医療を提供すること
が求められています。そのために我々薬剤師は、一人一人が日々自己研鑽に努
めており、さらに、がん薬物療法認定薬剤師などの各分野の認定を取得した薬
剤師がその知識を生かして活動しています。

医薬分業が定着した現在、調剤薬局の薬剤師は外来患者さんの薬学的管理を、
一方、病院薬剤師は主に入院患者さんの薬学的管理を行うよう分業体制が取ら
れており、当院でも外来患者さんには院外処方を原則としています。

当院では、各病棟ごとに担当薬剤師を複数配置し、お薬の説明、医師への処
方提案、常用薬や副作用の確認、抗MRSA薬の投与設計などを行うとともに、
医薬品情報を医療スタッフへ提供したり、カンファレンス、医師回診への同行
や感染対策、緩和ケア、褥瘡、栄養サポートなどのチームの一員として、多職
種と積極的に連携をとって患者さんの早い快復を願って活動しています。



病棟薬剤業務

(右から 2 番目が薬剤師)



呼吸器外科カンファレンス

(左から 4 番目奥が薬剤師

医師、MSW、看護師とのカンファレンス)



褥瘡チームラウンド
 (左から医師、薬剤師、認定看護師)



栄養サポートチームカンファレンス
 (左から2番目が薬剤師
 医師、管理栄養士、臨床検査技師、看護師
 認定看護師とのカンファレンス)

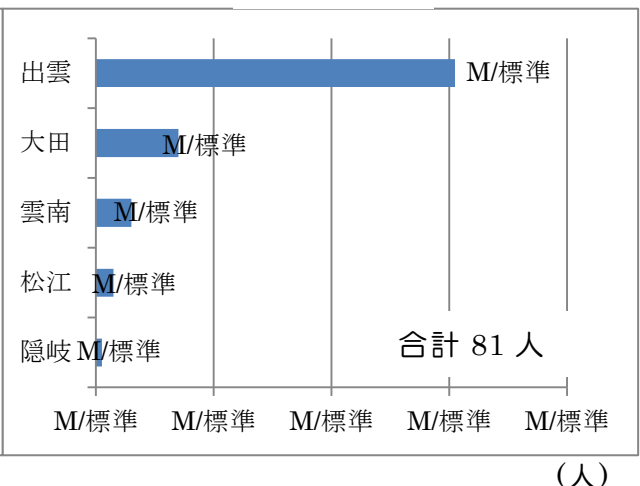
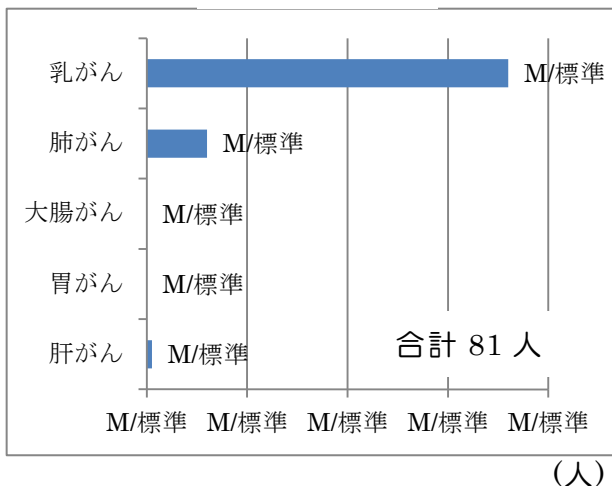
外来においても、安全で最適な薬物療法を実践するため、抗がん剤や麻薬などのハイリスク薬を投与される外来患者さんには、お薬の内容や副作用などの注意事項を説明したり、また外来で化学療法を受けられる患者さんには注射の抗がん剤を調製しています。さらに、院外処方抗がん剤を服用される外来患者さんについては、休薬期間の確認なども行っています。

当院は地域がん診療連携拠点病院の指定を受けており、質の高いがん医療を提供するためチーム医療を実践していますが、その一つとして「がん地域連携パス」をとおして、地域の医療機関と密接な連携を図っています。また、当院の薬剤師も、患者さんの同意を得た上で、入院中に当院で受けられた治療経過、処方内容、お薬説明内容などを「かかりつけ薬局」へ提供して、患者さんが退院後も良質な医療を受けられるよう連携を図っています。

かかりつけ薬局へ薬剤情報提供書を送付した人数

～がん種別～

～圏域別～



(平成23年7月～平成25年9月末)

認定看護師の紹介コーナー



慢性心不全看護認定看護師

看護師 錦織 慶子



昨年度誕生した慢性心不全看護認定看護師一期生として、病棟を中心に活動しています。

慢性心不全は、全ての心疾患の終末的な病態で、生命予後の極めて悪い進行性の症候群です。しかし、急性増悪で身体活動能力が大きく低下した状態の入院であっても、退院時には身体活動能力がある程度回復します。そのため、心機能と介護度は比例せず、高齢者に多い心不全患者さんは、認知機能障害へのケア、老々介護への支援など、様々な問題を抱えていますが、社会資源を十分利用できない現状があります。

また、心不全は血圧や脈拍の変化のみならず、息切れや咳嗽という呼吸器症状、尿量減少や浮腫という腎症状、倦怠感という全身症状など、様々な症状が複雑に絡み合いながら持続的に生じ、変化が見えにくいという特徴があります。増悪時の息切れなどの症状は、運動に伴う一時的な心負荷と類似しているため、自覚された症状や血圧などの変化を一概に増悪とは判断できない難しさもあります。

さらに、心不全は経過中に突然死の危険性がありますが、末期であっても心移植などの高度医療により劇的に回復する可能性もあります。末期の患者さんの多くは、現実より病状は軽く、予後は長いと考えていると報告されています。患者さんやご家族のみならず医療者側にも、『また良くなるだろう』という期待感があると言われており、予後予測の難しい疾患と言えます。

このような現状を踏まえ、慢性心不全看護認定看護師として、スタッフが心不全の病態と病期を適切に把握できるように指導しています。また、私自身が役割モデルとなり、患者さんが心臓に関心を向け、心不全の身体変化や症状を捉えられるように支援しています。さらに、病気との折り合いをつける過程で生じる患者さんの葛藤をスタッフが理解し、スタッフ自らが解決の方向を見出す事ができるように相談や助言を行っています。そして、心不全患者さんが生活を再調整していく力を引出せるように支援しています。

しかし、人生の大半を地域で暮らす心不全患者さんを支えるには、地域とのシームレスな医療の連携が必要になります。そのため、医師、看護師、栄養士、訪問看護師などの多職種によるチーム医療が重要であり、患者さんの目線で問題を共有する必要があります。患者さんの生活の中でのこだわりを大切にしながら、患者さん自身が満足と現実との折り合いをつけ、療養生活が継続できるように共に支援していきたいと考えています。



島根県立中央病院 患者会活動紹介

島根県立中央病院 医療連携・医療相談科では、糖尿病友の会、出雲 KA 友の会（ストマ造設者）、せきそんのつどい（脊髄損傷者）の3つの患者会の事務局を担当しています。

講習会や学習会、レクリエーションを会員とともに企画し、活動をとおして会員の QOL 向上を図っています。

今回は、“せきそんのつどい”の10月の活動を紹介します。

せきそんのつどい

10月19日（土）にレクリエーションとして「島根ワイナリー」へ行ってきました。当日はワインまつりと重なり、イベントにも参加することが出来ました。

参加者は、会員11名、ご家族4名、スタッフ3名で施設内の観覧、昼食はバーベキューを楽しみました。短時間ではありますが、楽しい有意義な時間が過ごせたのではないかと思います。名残を惜しみつつ次の機会を楽しみに散会となりました。



紹介件数、ネット・FAX 利用状況

	紹介件数	ネット・FAX 利用状況（内数）		
		まめネット	FAX 予約	
			診療	検査
平成 25 年 8 月	1,411	160	245	80
9 月	1,372	184	274	112
10 月	1,505	227	283	93

ご紹介をいただきありがとうございました